

特集

「トトロの森」の環境保全運動

小さな力が集まって大きな森を救う

新聞部は、埼玉大と連携新聞部をつなぐ連絡市民講座「トトロの森」環境について考えた、第1回「徹底的な環境問題の現状から第2回「美しい街並み景観を」第3回「環境問題の中で動物の保全の重要性」第4回「環境問題の解決策」第5回「トトロの森」の環境保全運動について取材を進め、第6回の講座「ナショナル・トラストの挑戦」狭山丘陵からの報告」埼玉大教育学部 安藤聡彦教授

「トトロの森」の環境保全運動

「トトロの森」の環境保全運動は、狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。狭山丘陵は、東京都の東部、埼玉県と東京都の境界に位置している。この丘陵には、豊かな自然環境があり、多くの動植物が生息している。しかし、近年は、開発が進むにつれて、自然環境が破壊され、多くの動植物が絶滅の危機に瀕している。このため、狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。

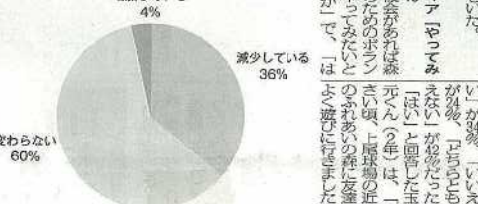


安藤聡彦(あんどう・としひこ) 1959年神奈川県生まれ。一橋大学大学院社会学部研究科博士後期課程修了。1999年、埼玉大教育学部助教授、2007年同学部教授。公益財団法人「トトロのふるさと基金」理事長。

松高生アンケート 地球や生物のために森林を守る

新聞部では、森林保全に対する松高生の関心を知るために全校生徒を対象にアンケートを実施した。その結果、森林の重要性を認識している生徒は多く、環境保全への意識が高まっていることがわかった。アンケートの結果、森林の重要性を認識している生徒は多く、環境保全への意識が高まっていることがわかった。アンケートの結果、森林の重要性を認識している生徒は多く、環境保全への意識が高まっていることがわかった。

Q1 身近な地域で森林や緑地は減少していますか



Q4 所沢市の狭山丘陵において、「トトロの森を守る」と寄付を募り、全国からの寄付金で土地を買取り保全する運動が進められていることを知っていますか



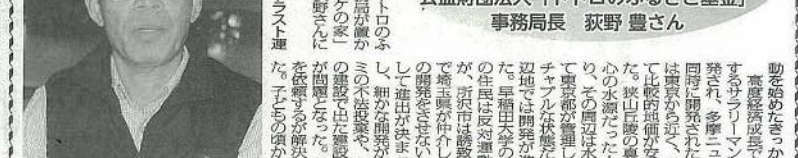
「トトロのふるさと基金」の活動拠点「クロススケの家」は明治30年代に建てられた古民家

狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。

「トトロの森」の環境保全運動は、狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。

森は人と人をつなぐ

公益財団法人「トトロのふるさと基金」 事務局長 荻野豊さん



「生まれ育ったふるさとを守りたい」と話す荻野さん。公益財団法人「トトロのふるさと基金」事務局長の荻野豊さん。彼は、狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。狭山丘陵の自然環境を守るため、市民の力で自然環境を守ろうと取り組んでいる。

埼玉大連携市民講座 part 5 「今、環境について考える」

- 第1回 「微生物学的な環境問題の見方」 科学分析支援センター講師 島山 晋先生
第2回 「生態系を活用した防災・減災」 大学院理工学部教授 田中規夫先生
第3回 「持続可能な社会とは」 環境から2050年の日本を構想する」 経済学部教授 外岡 豊先生
第4回 「ナショナル・トラストの挑戦」 狭山丘陵からの報告」 教育学部教授 安藤聡彦先生
第5回 「美しい街並み景観をつくる」 大学院理工学部助教授 深堀清隆先生
第6回 「多様性に満ちた森林に向けて」 フランスで生まれた「照査法」技法と今日の森林経営」 教育学部教授 三浦 敦先生

「トトロのふるさと基金」の活動拠点「クロススケの家」は明治30年代に建てられた古民家

